

# 非営利法人ニュース

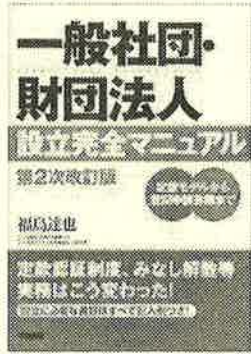
2019年  
9月号  
Vol. 78



発行 公益総研 非営利法人総合研究所  
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル  
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814  
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

## ★★ 新刊書籍情報 ★★

待望の第2次改訂版  
好評発売中！！



◎情報満載！今月のもくじ◎

新刊書籍情報	1
奨学金・助成金情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

## ★★ 返済のない奨学金のお知らせ ★★

### 【1】「2020年度シャンティ奨学基金」

#### 『関西2府4県の四年生大学文系女子学生向け奨学金！』

- 募集期間：2019年11月29日まで（当日消印有効）
- 採用人数：2020年度3年生または4年生の奨学生2名を採用とする。
- 給付等：単年度、年額50万円を支給します。

## ★★ 助成金のお知らせ ★★

### 【2】こどもオポチュニティーズクラブ基金

□助成目的：こどもの心と体の健やかな成長を願い、こども社会に格差ない「平等の機会」を支援する。

□助成対象：東京都・神奈川県・静岡県内において食料支援活動または学習支援活動を行う団体・個人で以下の要件を満たすもの

1. こどもに対して無料の食事支援活動または学習支援活動を行っているもの
2. 1年以上かつ毎月1回以上の食事支援または学習支援を約束できるもの
3. 営利目的でない事業であること

□助成額：月2回以上実施団体は1件あたり20万円以内（月2回未満は10万円以内）  
（助成件数10件程度）

□応募締切：2019年11月末日（当日消印有効）

□助成決定者：初めてこの基金から助成を受ける団体は、こどもオポチュニティーズクラブより取材の約束をさせていただきます。

### ☆奨学金・助成金応募先等☆

#### 【1】奨学金

#### 【2】助成金

→公益財団法人公益推進協会

応募用紙等郵送先

〒105-0004  
東京都港区新橋6-7-9  
新橋アイランドビル2階  
（公財）公益推進協会

- ・シャンティ奨学基金
- ・こどもオポチュニティーズクラブ基金  
担当 高野宛

お問い合わせ

03-5425-4201  
（問合せ対応時間：平日10時～18時）

※応募手続き：応募用紙は、当財団ホームページ(<https://kosuikyo.com/>)よりダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙と添付書類を郵送してください

※その他応募に必要な書類、選考方法等奨学金、助成金に関する詳しい情報は、財団ホームページ（<https://kosuikyo.com/>）をご覧ください

※奨学金、助成金情報はリンクフリーですので、ご自由にリンクしていただき情報提供をお願い致します

## ★非営利法人関連情報★

NY自由の女神近くで日本の盆踊り

米ニューヨークのガバナーズ島で30日、徳島県の阿波おどりなどを紹介する「日本三大盆踊りフェスティバル」が始まった。海を隔ててライブアップされた自由の女神像やマンハッタン夜景をバックに、太鼓や笛の音に合わせて浴衣姿の男女が踊り、幻想的な雰囲気となった。ほかに紹介されたのは秋田県の「西馬音内盆踊り」と岐阜県の「郡上おどり」。日本の伝統芸能を紹介する米国の非営利団体「ジャパ・パフォーミング・アーツ・インク（浜田裕子代表）」などが共催し、ニューヨークの各県の出身者でつくる県人会が協力した。

（佐賀新聞 8月31日）



愛媛県の匿名寄付1億円は本物だった

愛媛県は29日、今年1月に匿名で県庁の知事宛てに届いていた劣化した紙幣が、日本銀行が鑑定した結果「本物」で、1億661万円分だったと発表した。今年1月29日、段ボール箱の中に入った大量の1万円札の束が県庁に届いていた。変色してくっついた状態の札束を鑑定した結果、券面の3分の2以上が残存し1万円全額とみなされる紙幣が1万619枚、券面の5分の2以上3分の2未満が残存し、半額の5000円とみなされた紙幣が84枚、傷みが激しく紙幣と確認できないものが19枚だった。段ボール箱に差出人の記載はあったが、同封された手書きの手紙に、住所や氏名は架空と記され「役に立ててほしい。住所としておいて」と書かれていた。なぜ劣化した紙幣だったのか、なぜ匿名なのか謎が残った。中村時広県知事は「善意に、心から感謝申し上げる」と述べ、子育てや防災関連の県の基金に積み立てる考えを示した。上には上がいる。NHK大河ドラマ「真田丸」の舞台にもなった長野県上田市の上田城。匿名希望の上田市民から、城の復元の目的として市教育委員会に2018年12月、10億円の寄付があった。市教委は誰からの寄付かは把握しているが「本人の意向で氏名は明かせない」とした。

（東京スポーツ 8月30日）

### 阿南の母親2人 子どもの居場所を無料開放

夏休み明けに学校へ通うのがつらいと感じたり、家に帰らなくなったりする子どものために、阿南市の母親2人が同市柳島町弁財天西に居場所となる施設「べんざいてんのお家。」を設けている。2人は「自分らしさを育む場所にしてほしい」と願っており、子育てに悩む親にも利用を呼び掛けている。2～13日は毎日無料開放し、14日以降も定期的に開ける。施設は鉄筋平屋約100平方メートル。8～10畳ほどのスペースが3室あり、調理場も備える。山内瑠実さん(39)=宝田町平岡、主婦=と吉本真菜実さん(35)=羽ノ浦町明見、中学校教諭=が「生きづらさを抱える子どものために」と資金を出し合い、7月に賃貸物件を借りた。山内さんは未就学の2児の母。1月までの5年間、夫の仕事の関係で米国に住み、子育てを1人でこなす「ワンオペ育児」をする米日本人らを集めて絵本の読み聞かせをしていた。母親の悩みも聞く中で、親子が共に自分らしく生きられる居場所をつくりたいと考えた。吉本さんは育児休暇を取得して3人の子どもを育てている。子育て中には感情的になってしまうこともあると理解した上で、親にとっても一息つける居場所づくりの必要性を感じたという。「べんざいてん」は学校や家庭以外の居場所を紹介するキャンペーン「#学校ムリでもここあるよ」(NPO法人・フリースクール全国ネットワーク主催)に登録している。14日以降は週2、3回程度開放し、放課後の児童にとっての居場所や大人が子育てを相談できる場にする。2人は「子どもも大人も集まる場所にしたい」と話している。開放時間は午前10時～午後3時。（徳島新聞 9月1日）

＊内容に関しては、問合せ先に直接問合せをお願いします

### 災害救助犬と連携確認 警察と合同訓練

9月1日の「防災の日」を前に、認定NPO法人災害救助犬静岡と菊川署、菊川市消防本部は23日、災害救助訓練を市内で行った。災害救助犬を活用し、倒壊家屋に取り残された人を捜索・救助する流れを確認した。西日本豪雨の被災地などに出勤経験がある災害救助犬5匹が出動した。訓練指導役「ハンドラー」の指示を受け、がれきの周辺を歩き、はしごを使った捜索活動にも当たった。鋭い嗅覚を生かして要救助者役の存在を感知すると、ほえて周囲に知らせた。同NPOは県内各地に約20人のハンドラーがいる。菊川署、菊川市消防との合同訓練は3回目。署員と消防隊員は災害救助犬がほえた場所を重点的に捜索し、見つけ出した救助者役を担架に乗せて搬送した。（静岡新聞 8月24日）

### 災害時の「食物アレルギーっ子」レシピ作成

食物アレルギーのある子どもを持つ母親でつくる市民団体「LFA食物アレルギーと共に生きる会」(大阪府吹田市)が、被災したアレルギー患者の体験談や避難所での心構えを今年5月、冊子にまとめた。冊子は全国で反響を呼び、増刷のために9月末まで寄付を呼びかけているほか、キャンプなどを通じて子どもたちに災害時の注意点を学んでもらう活動を続けている。冊子はA5判で、24ページの「アレルギーっ子ママが考えた防災ハンドブック」。作成のきっかけは、昨年7月の西日本豪雨と9月の北海道胆振(いぶり)東部地震だった。被災地から「アレルギーに配慮した食品がなくなりそう」「悩みを誰に相談したら良いのか分からない」といった声を立て続けにLFA(「Living with Food Allergy」の略称)に寄せられた。（毎日新聞 8月31日）

## CF購入馬が初勝利 専門学校生が育成

競走馬育成などの専門学校「馬事学院」がクラウドファンディング(CF)で寄付を募って購入し、同学院の学生が競走馬に育て上げた2歳牡馬「バジグクローネ」がレースで初めて1着に輝いた。臆病で弱々しく、競りでも落ちれず行き場を失っていたかもしれないただけに、世話をしてきた学生の喜びもひとしおで「勇気もらえた」と話している。1着になったのは8月11日に大井競馬場であった第4レース「未受賞2歳」。6月7日にデビューし、この日は4戦目だった。ピンクのメンコと4番のゼッケンを着けたレオーネは勢いよく飛び出しゴールを駆け抜けた。昨年10月から世話をしてきた同学院2年の山田紗織さん(19)は研修中で行けなかったが、レース中継をスマートフォンで食い入るように見つめた。ゴールした瞬間は思わず「勝った！ やったー！」と叫んだ。同学院は骨折などで引退した馬を引き取り、学生が馬の生態について学ぶために活用したり乗馬用に転用したりしている。5年前には地方の馬主資格を取得し、買い手がつかずに行き場を失う恐れのある馬を購入して競走馬に育てようとCFを立ち上げた。昨年8～9月に全国163人から512万円の寄付が集まり6頭を引き取ることができた。うちレオーネを含む5頭が今年6月以降、次々とデビュー。その中で勝利馬になったのはレオーネが初めてだった。レオーネは昨年10月の最後の競りで買い手がつかず、同学院が120万円で購入した。主に山田さんが世話役を任されたが、やってきたばかりの頃は、他馬と一緒に歩くときも臆病で先頭立つことを嫌がり弱々しかった。4戦目にして1着になった。「この1勝がレオーネにとって一歩を踏み出した瞬間だったと思う。私も将来の進路について悩んでいるけれど、レオーネの走る姿に勇気もらい頑張ろうと思った」同学院はレオーネが獲得した賞金210万円の一部を引退馬の支援などに充てるという。（日刊競馬 8月28日）

### いのちの電話、滋賀で相談員不足

電話で悩み相談に乗り、自殺防止に取り組むNPO法人「滋賀いのちの電話」の相談員の不足状態が続いている。10月から新たな相談員を募る養成講座を始めることにしており、参加を呼びかけている。滋賀いのちの電話は2008年に開局した。18年は約3700件の電話があり、ここ数年は4千件前後と高い値で推移している。相談者の年代は男性が40代、女性は30代が最多で、女性が男性よりも多いのが滋賀の特徴という。相談内容は「精神」「家族」「人生」が多い。「精神」は女性の訴えが多く、「社会のひずみが女性、弱いものに向かっていていることを示しているのではないか」と分析。担当者は「近年は若い世代の自殺が多い。それを食い止める役割がある」と説明する。現在の相談員は、30～70代の元会社員や主婦らのボランティア36人。昨年から増えていない。（朝日新聞 8月20日）

### 岡山市 保育受け皿2割増2.2万人分確保

岡山市は2日、保育園の整備計画などを盛り込んだ第2期子ども・子育て支援事業計画案(2020～24年度)を発表した。25年4月には保育園の入園希望者が現状より2割増の2万1957人となる見通しで、受け皿を2割近く増やして2万2200人分を確保。待機児童の早期解消を目指す。入園希望者の見込みは昨年7月に行った保護者向けアンケートや10月に始まる幼児教育・保育の無償化の影響を考慮。直近の今年4月の希望者は1万8284人だが、今後モ右肩上がりで増え続け、25年4月には2万1957人に達すると推計した。これに対し、受け皿は今年4月時点で1万8967人分。これから保育園や認定こども園などを新設し、23年度には3233人分増となる2万2200人分に拡充する考えだ。今年4月時点の待機児童数は353人。全国2番目に多かった前年同期(551人)より大幅に減ったものの、ニーズに応え切れていない状況が続く。既に受け皿の数は入園希望者数を上回っている状態だが、保育士が不足して3割強の認可施設が定員以下しか受け入れられていないことなどから、待機児童が生じている。市は17年度に私立施設の保育士の給与を上乗せしたほか、本年度からは奨学金の返還や宿舍借上げの補助制度を独自に設けるなどで保育士の処遇改善に努めている。（山陰新聞 9月3日）

### 地区の家事支援 有償ボランティア始動

名張市の川西・梅が丘地区の有償のボランティア組織「ライフサポートちよいすけ」が、今春の活動開始から4か月を迎えた。月に4、5件ほどの依頼があるといい、活動を大きくするため奮闘している。同地区の地域づくり委員会が地元住民を対象に始めた事業で、地元から募集したボランティア会員が家事支援や庭木の手入れなどを手伝う。昨年実施した地域アンケートで、支援活動の要望が多かったのがきっかけ。現在、19人の会員が交代で活動しており、20人の利用者がいる。一人暮らしをする70歳以上の利用者が多く、高齢者の見守りにも役買っているそう。今後は、買い物など外出支援にも取り組むという。庭木の刈り取りを依頼した同市梅が丘の広岡昭次さん(70)は「手際よく作業してくれて、庭がすっきりした」と笑顔を見た。支援活動をした山口正志さん(64)は「1人で解決できなかった。料金はボランティア会員1人につき1時間500円。利用には会員登録と年会費千円が必要。（伊賀タウン情報ユー 8月24日）



### タビオカ専用ゴミ箱設置 渋谷のNPO法人

街のゴミ拾い活動を行うNPO法人「グリーンパード」は今月から、タビオカプームで急増しているゴミ捨て問題の解決のため、同区神宮前のコミュニティスペース「subaCO」にタビオカ専用のゴミ箱を設置した。昨今のタビオカプームで原宿にも多くのタビオカ店が出店しているが、容器のポイ捨てなどの問題が深刻化。タビオカドリンクは購入後飲み歩きをする人が多く「容器は形状が大きくゴミ箱の投入口をふさいでしまい、捨てたくても容器を捨てられず、空きスペースに捨てられることが多い」と話す。同NPOが運営する「subaCO」に設置されたのは、タビオカドリンクの容器を模した高さ約120センチの専用ゴミ箱。横にはザルとバケツが置かれ、飲み残しにも対応しており、どの店のタビオカドリンクも捨てることができる。代表の福田さんは「タビオカプームで街が盛り上がっているのに、一部のマナーが悪い人のためにタビオカ＝ゴミと思われたくない」と訴えた。（産経新聞 8月31日）

## 大雨被害を受けた佐賀・武雄に車両支援

宮城県石巻市の一般社団法人日本カーシェアリング協会は4日、8月末に記録的な大雨で被害を受けた佐賀県武雄市に向け、軽貨物車など18台の搬送を始めた。被災者やボランティア団体に無償で貸し出し、生活再建に役立ててもらう。石巻から14台、2018年の西日本豪雨で支援活動を展開した岡山県倉敷市から4台を送る。支援活動は11月末まで実施し、協会のスタッフが常駐する。運搬にはオートバックスセブン(東京)が協力。オートバックス石巻店からは車両5台が運搬車に載せられ、武雄市に向かった。仙台港からフェリーに乗るなどし、13日に着く予定。車両は現地で調達し、約80台に増やす。協会が東日本大震災後、被災地で支援活動に当たるのは16年の熊本地震や17年の九州北部豪雨などに続き7回目。8月30、31の両日に佐賀県で被災状況を確認した吉沢武彦代表理事(40)は「車両の被害が大きいと感じた。これまでの経験を生かし、被災者の役に立ちたい」と話した。現在、現地で活動するスタッフやボランティア、支援車両を募っている。（河北新報 9月5日）

## 広がるフードパントリー 川口2カ所増

企業などから余った食品を集めて保管し、生活に困っている子育て家庭に無料で配る「フードパントリー」の取り組みが、県内で活発になってきた。県が昨夏から保管拠点の見学ツアーを実施。その参加者が今月、川口市内で新たに2カ所のパントリーを始める。行政と民間の連携から支援の輪が広がろうとしている。新たなパントリー2カ所は、教会を運営する池田新正さん(54)が6日、主婦牛坂奈津子さん(55)が15日にそれぞれ始める。フードバンク団体「セカンドハーベスト・ジャパン(2HJ)」(東京)からレトルト食品や飲料などの提供を受け、事前に申し込んだひとり親家庭などに配布する。池田さんは子ども食費を毎月開き、地域での子どもの居場所づくりに努めている。「パントリーなら直接的な支援ができる」と考え、準備を進めてきた。一方、牛坂さんは数年前から食品ロス問題に関心を深め、2HJの活動を知った。自身も母子家庭で育ち、苦勞した経験を踏まえ「パントリーが身近になれば、ひとり親は助かるに違いない」と思い立った。ネックになりやすい食品の保管場所は、池田さんが子ども食堂の会場に、牛坂さんは夫が経営する学習塾の一室に確保できた。いずれも既に10世帯ほどから申し込みがあり、今後は2カ月に1回のペースで配布する。農家から野菜の寄付も募りたいという。「パントリーを通してつながりたい家庭に、子ども食堂や給付型奨学金など支援の情報も伝えていきたい」と池田さん。牛坂さんは「学習塾での開設という特性を生かし、いずれは学習支援もできる居場所にしたい」と意気込んでいる。（東京新聞 9月5日）

### 特別養子縁組の実体験、赤裸々に語る

生みの親が育てられない子どもの救済策の一つとして知られる「特別養子縁組」の勉強会が仙台市青葉区の市市民活動サポートセンターであり、わが子を特別養子縁組に出した奥山幸恵さん(36)＝仮名＝が実体験を赤裸々に語った。奥山さんは現在、養子縁組を職員として、養子縁組に悩む人の相談に応じている。奥山さんは30歳のときに妊娠した。直後に婚約者が逮捕され、子育てを頼れる状況ではなくなった。貯金もなく「1人で子どもを育てられない」と途方に暮れた。インターネットで「産んでも育てられない」と検索すると、特別養子縁組制度が目にとまった。思い悩んだ末、NPO法人の仲介で特別養子縁組に出すことを決意した。NPO法人の母子寮に入り、無事に女の子を出産。だが、すぐにわが子との別れは訪れた。涙を流す日々を支えたのは母子寮の女性たちだった。「同じ境遇の人と話し、つらい思いを共有できたことが救いになった」養父母が写真を送ってくれたり、娘を連れて会いに来てくれたりしているため成長を把握できている。「娘は私がどんな存在か理解してないけれど…」と話す。奥山さんは「養子縁組した当時は悲しく、つらかったが、今はこの経験を肯定できる。養子という選択肢を遠ざげず、子育てが難しい状況にあるなら相談してほしい」と呼び掛けている。（河北新報 8月28日）

### 県内外高校生が合宿、魅力をインスタ発信

この夏、秋田県内外の高校生が本県に合宿し、地元の人々と交流して見つけた秋田の魅力を会員制交流サイト(SNS)で発信する—という活動が行われた。秋田公立美術大(秋田市)と、同大が設置したNPO法人・アーツセンターあきたが昨年始めた公募企画「高校生クリエイティブキャンプ」だ。2年目の今年は県内外から4校の高校生が参加。地元の人や自然とじっくり触れ合いながら、秋田のPRIに一役買った。「秋田ならではの食材を教えてください」「その食材のお勧めの食べ方は?」。先月下旬、秋田美大にほど近い新屋地区の商店街。4人の高校生が地元のすし店や酒造店に「飛び込み」で入店し、店主らにインタビューした。4人は鹿兒島純心女子高の3年生。4泊5日で本県に滞在し、秋田の食材を使った新たなメニュー作りに挑戦した。4人が考案したのは、ふるさと鹿兒島の郷土料理「鶏飯(けいはん)」をアレンジした麺料理。本県の食材をふんだんに取り入れた。（秋田魁新報 8月30日）

### 女子高生がPR 素朴な菓子できた！！

地域の特産品づくりに取り組む長浜農業高(滋賀県長浜市名越町)は、同高の水田で収穫した米と、地場産大豆を使った「ポン菓子」を地元のNPO法人と開発した。同高は「今秋から本格生産し、長浜の新たな特産品として定着させたい」としている。規格外の米の有効利用と長浜産大豆の活用を目的に、昨年11月から同高農業科食糧生産分野プロジェクト研究班の生徒ら12人と、NPO法人「つどい」(同市常喜町)が開発を始めた。ポン菓子は空気の減圧を利用して穀物を膨らせた素朴な菓子で、口に入れるとさくさくと砕け、香ばしさが広がる。子どもからお年寄りまで食べられる点や、米や大豆の形や粒の大きさに関係なく商品化できる点などから、ポン菓子への活用を考案した。米原市の社会福祉法人「ワークスさかた」からポン菓子製造機の提供を受け、水分や砂糖の量、温度管理などの試行錯誤の末、砂糖で味付けした「プレーン」と、きな粉をまぶした「きな粉」、大豆そのものを加工した「大豆」の3種類を完成させた。6月にスーパー「長浜アルプラザ」で試験販売したところ、米の風味や、きな粉の香りがよく、おいしいと好評だったという。今後、スーパーや農産物直売所などの販路を開拓する。1袋80～150円。（京都新聞 9月5日）

### 子ども悩み相談 チャットやLINEでも

「学校に行きたくない」「クラスメートに会うのが不安」……。新学期が始まる時期には、そんな悩みを持つ子どもたちもいる。命を守るための相談窓口が、電話以外にも広がっている。18歳以下の子どもたちの話を電話で聞く「チャイルドライン」。NPO法人「ひろしまチャイルドライン子どもステーション」は、オンラインの「チャット相談」を9月6日まで毎日(午後4～9時)受け付ける。通常は毎週木・金曜日(同)のところを、新学期前後に合わせて拡充。電話相談の経験があるボランティアが研修を受けて、書き込まれた相談に対応する。上野和子理事長は「苦しい思いをしている人はチャットでも電話でも自分の使いやすいツールで、まずつながることが次への第一歩です」と話す。

（朝日新聞 8月31日）



### 観光ガイド人気 案内件数10年で5割増

NPO法人「土佐観光ガイドボランティア協会」が高知市の観光名所で行うガイド事業が、安定した人気を誇っている。10年ほど前までは年間の案内件数は1万件以下だったが、観光客の増加などで近年は1万5千件前後で推移。一方、ガイドの確保も課題になっている。土佐観光ガイドボランティア協会は1989年から活動。研修を通してガイドを養成し、会員が高知市内の観光地で無料ガイドをしている。現在は高知城、桂浜、日曜市、龍馬の生まれたまち記念館(上町2丁目)、とさてらす(JR高知駅前)に会員が常駐し、事前の予約で個別ガイドにも応じている。件数を集計している高知城、桂浜、生まれたまち記念館(2004年開館)の3カ所を合わせた案内件数は、2008年度までは1万件前後で推移。大河ドラマ「龍馬伝」があった2010年度に2万1千件と跳ね上がり、近年は1万5千件前後で続いている。土佐観光ガイドボランティア協会によると、安定した需要は、入り込み観光客数が増えたことに加え、「ガイドの質も一因」とみる。「お客さんとの会話を楽しむガイドさんが多い。それが評価につながっているのでは」と担当者。自作資料で個性的な解説をするガイドもあり、リピーターもいるという。（高知新聞 9月5日）

### 全日空など「&HAND」の実証実験実施

全日本空輸(ANA)と一般社団法人PLAYERSは9月5日、チャットボット「&HAND」の実証実験を、9月5・6日に羽田空港で行うと発表した。「&HAND」は、PLAYERSが開発したサポートを必要とする人とボランティアをマッチングし、両者の具体的な行動を後押しするチャットボット。サポートが必要な人が、発信機内蔵の「&HANDデバイス」を使いサポートを求めると、「LINE」を通じて登録しているボランティア(サポーター)にサポートを求めることができるというもので、これまでに鉄道事業者や通信事業者と連携して、駅構内や車両内での実証実験を行っている。今回の実証実験では、羽田空港第2旅客ターミナル1階到着ロビーに設置した「&HAND」端末を使用する。この「&HAND」端末は、不特定多数の人が利用する空港という環境に特化するよう新たに開発したもので、空港内で問い合わせ内容の多い「乗り換え案内」や「手荷物運搬の手伝い」、「困りごと全般へのサポート」の3つのボタンを備えている。サポートを必要とする人は、この端末上で必要とするサポート内容を選択するだけで、近くのサポーターの「LINE」上に知らせが届く様になっているため、自ら声かけをする必要なく、サポーターから手助けを受けることができるという仕組みだ。なお、今回のサポーターは、事前に登録を行ったANAグループ社員のボランティアが行うとのこと。（航空新聞 9月5日）

## 「そんなに韓国のニュース見たい？」

公益総研株式会社 首席研究員兼CEO  
公益財団法人公益推進協会 代表理事  
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也



やっと、地獄のような暑い夏もおさらばして、快適な秋が来る～と思ったら、やっぱり残暑・・・  
本当に鬱陶しい日々が続いているが、ネットニュースもテレビも、最近、本当に鬱陶しい！あなたはそう思いませんか？？何がって、そう、韓国のニュースですよ！韓国の！！  
きっかけは、何といっても、昨年10月に韓国大法院（最高裁）が日本企業に賠償を命じた徴用工問題であることは誰でも知っているだろう。この問題は、1965年の日韓請求権協定で完全に解決しているのだが、それをこともあろうに、韓国の最高裁がひっくり返してしまったのだ！すごい国！！恐らく、韓国の文大統領も判決を聞いてビックリしただろう。それなのに、間違いを認めないどころか、「日本政府や軍が関与した反人道的な不法行為は請求権協定で解決したと言えない」と便乗してしまったのだから、すごい人だ！  
もともと日韓は、竹島問題や慰安婦問題であまり仲がよろしくないのだが、火に油を注ぐとはまさにこのことだろう。そしてついに、8月22日に韓国が日韓軍事包括保護協定（GSOMIA）の破棄を決定したことで、もうドロドロの応酬合戦に発展してしまったのだ。そして、今日に至るまで、報道という報道はこの日韓関係悪化のニュースばかりだ・・・  
そもそも、一国の大統領が、過去の協定を無視するような国なのに、むきになってどうするのだ？？  
かつて第2次世界大戦では、ソ連は、日ソ中立条約（不可侵条約）を締結したものの、弱り目に祟り目とばかりに、敗戦濃厚な日本に宣戦布告してきたではないか！！忘れたのか？協定も条約も、破られるためにあるのだ！  
特に韓国の文大統領は、将来の北朝鮮との経済統合を目指し、北朝鮮に融和的な人である。北が大好き大好きではないらしい。そういう人にケンカを売って、相手が折れるとも思っているのだろうか？？私はそうは思わない！  
「北風と太陽」ではないが、「北風」はどんなに強くなっても、相手を閉じ込めてしまうだけだろう。そこで提案だ！！やはり「太陽」政策だろう！  
旦那さん、「国際法を無視する国なのだから、歩み寄るなんて相手に付け込まれるだけだ」なんて言わずに、あなたの周りを見てごらんさいよ！！あなたの周りの女性たちのほぼ半数は、韓国が大好きだし、今でも韓国のテレビで韓流スターやアイドルにキャーキャー言っていて、韓国グループの歌を毎日歌っているのだから・・・  
さらにさらに、聞くところによると、韓国旅行も安くなっているのだから、日本女性の韓国旅行はこの間増え続けているそうなのだ。韓国に行って、焼肉を食べて歌って、エステや美容に夢中なのだ！すごいぞ、日本女性！！  
これならKY世界選手権で優勝間違いなしだ！！男子よ、そしてメディアも、彼女たちを見習いなさい！！  
しかし、同じ女性でも韓国の女性はなかなか厳しいようだ。その証拠に、日本からの訪韓はまだ増えているというのに、韓国からの訪日客はガタッと落ち込んでいるようだ。うーん、韓国女性も日本女性を見習うべきではないか？  
ただ、正直に言うと、日韓関係悪化による日本経済への影響はほぼ今のところないらしい。  
それよりも、むしろ、日本経済全体に影響を及ぼすのは、10月から行われる消費増税だろう。思い出してほしい。2014年の消費増税のことだ。あの時は、「判断ミスだった」と当時の安倍首相は後悔していたそうだが、今回も同様に、失政だったと振り返られる可能性が高い、と私は予想している。何故かって？？算数ができる人なら誰でもわかるはずだ。消費増税による家計負担増の金額を確認すると、消費増税にともない約4.6兆円の税収負担が増えることになるが、増税によって、幼児教育と高等教育の無償化などの制度が始まって約2.4兆円が政府から家計に支給されても、恒久的な家計負担は約2.2兆円増える。4.6-2.4=2.2なのだ。子どもがいなかったり、いても大学生以上の家庭の場合は、恩恵はほぼゼロだ！この家計負担に対して、政府は2兆円規模の臨時の景気対策を行うが、このうち1.35兆円は防災、国土強靱化政策で、家計の所得負担を直接軽減させることにならない。時限的な対策として、いわゆるポイント還元制度などもあるが、これらはたったの0.66兆円だ。さらに、もう、トイレットペーパーなどの生活用品の買いだめが始まっているそうだが、今回の増税で10月1日以降の個人消費が落ち込むことは明白だ！名目賃金が1%程度しか伸びていない中で、家計所得に無視できない規模の負担が生じれば、サラリーマン世帯の場合、少なくとも贅沢品などの個人消費はしばらくほぼゼロに失速するだろう。つまり、消費増税以降、日本経済の成長率は、ほぼゼロ成長に減速するといっても過言ではないだろう。  
日韓関係の悪化が大きなニュースになっているが、それも政府の作戦ということも早く気が付いてほしい。  
そう、日韓問題で熱くなっているうちに、シレッと消費税増税をスタートさせるつもりなのだから、あなたはもう、マスコミに流される「B層」になってはいけないのだ！！

※ちなみに、私は韓流スターに嫉妬しているのではありません。ホントだってば～(;'▽')

### \* 編集後記 \*

朝一番でベランダに出て、ハーブや草花、木々に水やりをして元気に育っているかを見て回る事で1日を気持ちよく始められる効果があります。その中にオリーブの木があります。毎年小さな可愛い花を咲かせ、その後小さな実を付け、段々膨らんで緑色になり、やがて完熟して市販されるサイズ位に成長してくれます。昨年はこれまでにない数の完熟した実が収穫前にムクドリに食べられ、ベランダには紫色の果汁と種だけが残り…ショックでした。今年はまだ緑色の実を早めに収穫して塩漬けを作ろうかと、只今思案中です。（タラ）